

かゝる時であつた。

時は國內相争の事態を許さない。否將來とも國家は共に相協行する時に、其の發展を約束されるのであつて、断して階級対立は其の結果に於て各々の求んとするものでない。

日本の労働運動は過去の過りを一切精算し、其の運動精神をして、強烈なる國民意識、愛國精神を以つてしなげればなり。兎も、自己本意に功利的な打算を落し入る人とする、労働組合主義をして更に國家繁榮を通じて自己を生かさんとする、日本精神を基調とした、日本主義労働運動の採用こそ、日本人の、日本の労働者の行くべき途である。

即ち日本主義労働運動の行動の基本たる、  
一、労働者の職分は産業上の秩序たるに鑑み、階級的偏見を去り、融合  
以つて産業の開發に努むべし

二、労働条件の無条件維持改善を排し、其の適正を期すべし  
三、國家の柱石たる産業人としての自己の職分を完すべし

を主張する。

労働の経済的立場は不一致であると云ふ唯物的論據が労働組合の基因である。

即ち利害が一致しないと云ふ事は、対立的立場を採る事に依つて、殊に甚だしい現象を生ずる。利害の不一致を理由として、階級闘争を主張するものなれば、各人は、大なり小なり各々利害が一致するものではない。

これが闘争の眞理なれば、万人は闘争しなければならぬ。吾々は社會生活に於て、その各々の立場より来る關係は、各が、自利と正しき、認識を以つて相譲る處に人間としての解決がある。人類である以上此の事實は労働の間に於ても、不平等の経済的立場は、決して戦ふ事に依つて解消、解決なし得るものでないのみならず、相互の理解が、眞の解決をなし得るのである。

現に日本の労働運動内に於て、此の理解の下に、融和と協力が、眞実